

インターバンクの声（2015年6月8日）

米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げ時期をめぐって注目された先週末の米雇用統計だったが、22万人程度の増加ではないかと予想されていた非農業部門雇用者数が28万人の増加となり、9月の利上げの可能性が高まったと受け止められている。失業率が0.1ポイント上昇したことを気にする向きもあったようだが、平均時給が前年同月比で2.3%まで上振れしたことで、懸案だった賃金の伸びを確認できたことで、そうした懸念も吹き飛んでいたようだ。この雇用統計結果を受けて、ドル円は先週の火曜日に付けた125円台前半を遥かに超える125円86銭まで一気に上昇、急速な円売りのスピードに対する警戒感も出ているが、今のところ大きな調整は起きていない。この雇用統計の結果を踏まえても、まだ年内の利上げに対して慎重な意見を持ち続ける人も少なくないが、今週木曜日に5月の米小売売上高の発表を控えているからだろう。確かに小売の結果が良くなければ、再び年内の利上げの可能性が弱まり、円が買い戻されるきっかけになるかも知れない。足許の注目は、木曜日までは少し時間があることから瞬間的に126円越えを試すような動きがあるのかどうかだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。